

IAUD Newsletter

No. 8 2009.11

IAUD Newsletter vol.2 第8号 (2009年11月号) 目次

1. towards2010 山本会長に聞く

	~技術革新による可能性と新たなUDの課題~ ・・・・・・・・・	1
2.	株式会社アップアローズの CSR 活動 ~ウェブサイト構築における UD~ ・・・・・・・・	7
3.	Case Study: 衣のUDプロジェクト 衣服のユニヴァーサルデザイン ・・・・・・・	10

4. 世界の UD 動向:第3回国際UD会議2010 プレイヴェント 「しずおかユニバーサルデデザインの絆 in 浜松」開催プログラム決まる! 'Design for all Foundation'ニュースレターより

【UD2010 ウォッチング】 ほか ・・・・・・・・・

今年度の特集テーマを"towards2010"として、来年の国際会議に関わりのある方々に順次、ご登場いただいていますが、今回は IAUD サイドから山本会長にお話を伺いました。IAUD 発足の大きなきっかけとなった 2002 年横浜の日本初の国際会議前後のエピソードなど、IAUD の足跡をたどり、その社会的ミッションを再確認することができました。また、長年の経験にもとづいたお話から、厳しい経済情勢を乗り越えて、来年度の国際会議の成功に向けて、迷うことなく自信を持って推進してゆく心の支えと、会議企画・運営の方向性を示していただきました。

towards2010 山本会長に聞く

~技術革新による可能性と新たなUDの課題~



日 時:2009年10月15日(木)16:00~17:00

場 所:富士通株式会社本社 来賓室

お話し:山本 卓真 (IAUD 会長)

聞き手:成川 匡文 (IAUD 理事長/情報交流センター所長)

川原 久美子(IAUD 事務局長)

成川: 本日はお忙しいところありがとうございます。これまで巻頭のこの特集では、UDという 考え方が日本で広まる初期のころから深く UD に関わってこられた方々に、2002年の国際 会議から IAUD 発足に向けた当時のエピソードや UD にかける想いなどをお伺いしてきました。本日はこちらで考えてきた話題にとらわれず、会員の皆さんにお伝えしたいことを自由にお話いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

山本: 私が UD に関わるようになったのは、それまでは不勉強でそれほど深い関心を持たずに



いたのですが、殿下(寛仁親王殿下)が総裁をされていた ある団体の会長を私が務めていたこともあり、殿下からお 声がかかったことがきっかけでした。

殿下とはその前から、私の父が大宮殿下(三笠宮崇仁殿下)と騎兵連隊で関係があり、当時私はまだ10代でしたが、そのころからの御縁です。あるとき大宮殿下のゴルフのお伴をさせいただいたこともありました。大宮殿下は私より10歳年上でその時80歳でしたが、大変お元気でドライバーの飛距離もわれわれよりずい分飛ばされたり、長いパットを一発で決められたり、まわりの皆さんがついていくのが大変という印象的な場面がいくつもありました。

殿下からお声がけいただいた後、UDのことをいろいろ調べていくうち、これは社会的にも大変いいことだなということが次第に分かってきて、国際会議をやろうということになりました。最近は企業が不況慣れした感じ(笑)もありますが、当時は今以上に本当に深刻な不況の真っただ中で、企業に協力をお願いするには最悪な状況でした。そんな中で松下電器(当時)の戸田さん(前評議員会議長)が本当にがんばってくださって、会社としても多大な協力をしていただいたこともあって、そこにまわりの企業が続きました。そのおかげで、会議では国内外からの参加者や来場者の方々に大変良い印象をもっていただき、第1回目から大成功という結果につながりました。そんなことも、殿下の存在自体や要所でお言葉をいただいたりしたことが大変大きな力になったと思います。その後の京都も大変うまくいきましたしね。

見ていますとその後、次第に UD が社会に浸透していき、例えば公共交通機関などでも 駅舎のデザインなど直接 UD という言葉を使われなくても、しっかり取組みをされて IAUD のイヴェントなどでもずい分、ご協力いただいていますよね。

成川: 少し前に、殿下が会長を務められている社会福祉団体の柏 朋会を通じて JR や私鉄の方をお呼びして、直接当事者の方の 声を聞いていただいたりしたことがありました。公共交通機 関では現在ある施設を活かしながら営業を続けるなかで、対 応していかなければいけないということで、ご苦労も多いよ うですが、現状はしっかり認識されていて、お客さまの強いニーズを受け止めつつ大変努力されています。

殿下のお力ということでは、今回の国際会議でも IAUD の会員企業に出していただいた協力依頼のレターが、各社で話を進めるうえで大きな助けとなりました。

山本: 本当にそうですね。先日の組織委員会で国際会議の進捗状況をお聞きしましたが、この不況のなか、実行委員の皆さんも大変よくやっていただいているなと感じます。また、組織委員の方も鈴木浜松市長をはじめ、静岡県も IAUD に対して川勝知事からごあいさつ状をいただくなど、ずい分ご配慮いただいているようですね。

成川: 実は一昨日、殿下が静岡新聞社の社主をよくご存じだということで、専務理事と事務局 長と3人でご挨拶に伺ったのですが、殿下から事前に社主の奥さまにお電話いただいてい たようで、非常に丁重なご対応をいただきました。応接室に入りましたら、記者の方、カ メラマンや静岡放送のテレビカメラなど報道陣の方が待ち構えていまして、聞いてなかっ たので大変驚きました。静岡新聞は地元では7割近くの方が購読されている新聞ですが、 早速翌日、記事にしていただきました。



山本: これは大変いい記事じゃないですか。しかし、地元メディアや浜松市、静岡県も非常に熱心にがんばっていただいていますが、企業参加の方はまだまだ油断できない状況ですね。「UD はさりげなく」と殿下がおっしゃっているので、強制する話ではありませんが、会員企業のテレビコマーシャルなどでも「ユニヴァーサルデザイン」という言葉を使って伝えるなど、会員企業にもお願いすると同時に、一般の皆さんの理解を深めていくことをしっかりやっていく必要があると思います。

川原: テレビコマーシャルということでは、殿下も組織委員会でお話されていましたが、番組だけでなく CM にも字幕をつけようという問題があります。テレビの番組自体はかなりの割合で対応されてきましたが、CM だけ字幕がついていない。障がいのある方にとってもCM は貴重な情報源だということで、IAUD の余暇の UD プロジェクトでは聴覚障がいの方も参加されて、実現に向けた活動に取り組んでいます。

山本: 確かにテレビ CM に字幕がつけば日頃のコミュニケーションでも話題にもついていけますし、大事なことですね。私も 84 歳になりまして、最近一番ひどいのは嗅覚が鈍ってきて、少しくらい臭いがわからなくても大きな問題はないのですが、目や耳などと合わせて感覚が落ちてきているので、切実な問題として UD の重要性をますます実感しています。

それに対して、技術が進んで実現できることも広がってきましたよね。例えばNTTドコモの「らくらくホン」では相手の声の音量を上げてやるとか、ゆっくり聞かせるなど、新しい技術がダイバーシティといいますか多様なユーザーの可能性を広げるという意味で、今後まだまだ実現できることが増えていくと思います。



また、高齢者をはじめそれを必要とする人も急激に増えていて、UD 活動の対象の場がさらに広がっているなと、直感的にそう感じます。

少し前に、ロボット学会も IAUD 会員になっていただいたのだなと、会員リストを見ながら考えたのですが、例えば、介護ロボットというのもまだまだこれから発展していく領域でしょうね。今後は人間とのインタラクションを含めて製品単体からシステムで考えることが、さらに重要になってくると思います。街のなかでも電動車いすをずい分見かけるようになりましたが、センサーを使用して危険を回避するなど、UD の視点を入れて実現できることが、まだまだありそうですね。

成川: 最近、自動車メーカーでも一人乗りの電気自動車などを開発されています。対象や目的 は多少違うかも知れませんが、あの技術を電動車いすなどに活かせば、素晴らしいものが できるのではないかと思います。

山本: しかし、高齢者にとって楽になればそれだけで良いというわけではなくて、動けるうち



はその力を維持することも重要で、過度にやり過ぎないことものUDの課題のひとつとして、今後よく考えていく必要があるのではないでしょうか。最良のデザインは一人ひとり異なるわけで、バリアフリー住宅の一角にトレーニングのためのスペースをつくるといった工夫も必要かも知れない、あまりお年寄りの希望通りに聞き過ぎちゃいけないですね。(笑)

UD は今後のさらなる技術の発展などで将来が楽しみな領域ですが、同時に長期的な視点で一人ひとりにとって本当に何が良いのかとか、どう感じるかという心の問題など、大変難しい新たな課題も見えてきましたよね。

成川: IAUD の UD プロジェクトでも何度か見学に行っていますが、荒川修作さんというアーティストが三鷹市につくった「三鷹天命反転住宅」というのは、人の感覚を活性化させることをねらいとした実験的な建築で、床が傾いていたりデコボコしていたり決して住みやすいというものではありませんが、UD の視点で考えると大変興味深いテーマだと思います。

山本: ダイバーシティということでは、私が強い感銘を受けた方にヤマト運輸(株)元社長の小倉昌男さんという方がいらっしゃいます。小倉さんは現在皆さん普通に利用されている「クロネコヤマトの宅急便」の生みの親で、独創的な発想で企業のトップとして先頭に立ち、制度の縛りや省庁の官僚相手に飽くなき戦いをされた方です。会長職を自ら退任されたかと思ったら、障がい者が自立して働く「スワンベーカリー」というパン屋を銀座に開かれ、私もよく利用させていただきました。小倉さんは障がい者が働く現場を見て、月給が1万円にも満たないという事実を知り、ショックを受けて会社を立ち上げられたということです。亡くなられた今は別の方が社長を引き継いでおられますが、現在、「スワンベーカリー&カフェ」を全国に20数店舗展開され、障がいを持った多くの社員の方が一緒に

働いていらっしゃるということです。UD 対応がうまくいくと雇用の拡大にもつながり、経営者の視点、ダイバーシティという意味でも大変有意義で、小倉さんのその志に強く打たれました。

成川: 来年の国際会議でも論文募集の分野を議論するなかで、そういったダイバーシティだと

か雇用というテーマもあるのではないかという意見も出ています。UDの領域も「らくらくホン」のような製品デザインから「スワンベーカリー」のようなしくみづくりまで分野の幅が広がってきていますね。また、ユニヴァーサルデザインという考え方自体も「デザイン」という言葉が多少、制約というか誤解を生んでいるという見方もありますね。



山本: 元来「デザイン」という言葉を使っても問題ないとは思い ますが、内容が一般通念として理解されている「デザイン」という言葉の領域を越えていると感じられることもあり、適当ではなくなってきた部分もあるかも知れないですね。

川原: 先日、鈴木浜松市長にお話を伺った際にも、かつて行政関係で都市計画をグランドデザインと呼んだように究極のデザインは政治かも知れない、UDを社会に浸透させて社会を劇的に変えていくには政治の力も必要だという話をされていました。これまでの国際会議では省庁のセッションはあったのですが、鈴木市長は元民主党の衆議院議員ということもあり、2010年の会議では知り合いの政治家に声をかけて、政治家のセッションをぜひやろうということになっています。UDの活動もそういった大きな視点が必要になってきたのではないかという感じがしています。

成川: 鈴木市長がおっしゃるには、浜松市でも UD に取り組み、静岡県でも推進してきて次第 に分かってきたけれど、社会のしくみや法制度を変えていく国の政治が遅れていると認識 されていて、そういったところを来年の国際会議という場を通じて変えていきたいという ことでした。

山本: 静岡県や浜松市など開催地の皆さんががんばっておられるのは大変すばらしいと思いますが、特定の地域だけでは社会全体を変えていけないので、日本で UD の国際会議を開催するにあたり、首都圏だけでなく全国いろいろな地域で開催するという考え方は非常に意味があることです。これも殿下のお考えでしたが、UD の浸透のためには大変良いアイデアだと思います。

川原: 開催地として、まだどこだとは名前は明かせませんが、2010年の次の国際会議をぜひうちでというオファーも実はいただいていまして、すでに誘致の準備に取り掛かられているとお聞きしています。また、国内だけでなくアジア圏も巻き込んだ展開にしたい、というお考えまであるようで、大変積極的に取り組んでいらっしゃいます。

成川: 最後に、来年の国際会議開催に向けて、ぜひこうあるべしと か会員に向けて伝えておきたいことなどありましたらお願い



します。

山本: 日本の UD は順調に進んでいると認識していますので、それほど大きな心配はしていません。しかし、本来の UD とは何かということが、まだまだ一般の人に伝わってないのではと思っていますので、まずそれをしっかりやっていく必要があるでしょうね。それこそ、さりげなく大胆にやっていきたいですね。

今後の進歩・発展の方向性については、私よりも現場で活躍されているフレッシュな次の世代の皆さんで、ぜひ考えていって欲しいと思います。

成川: いろいろな経験を重ねられた会長のお話は重みがあり、大変参考になりました。国際会議の準備はまだまだこれからが大変ですが、今日伺ったことを十分考慮しながら企画の検討を進めていきたいと思います。本日は貴重なお話を本当にありがとうございました。



株式会社アップアローズのCSR活動 ~ウェブサイト構築におけるUD~

株式会社アップアローズ

■ はじめに

近年、大企業を中心にCSR(企業の社会的責任)活動が盛んに行われ始めています。しかし、中小企業ではその余力がないため、ほとんど実施されていないのが現状です。弊社は、企業は社会の一部であり、社会に貢献して初めて認められる存在という考えの下、持続可能で事業規模にあったCSR活動に取り組み、社会やステイクホルダーのみなさまからの信頼にお応えしていきます。

株式会社アップアローズ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:星加修以下アップアローズ)はCSR活動の一環として社会福祉法人目黒区社会福祉協議会 めぐろボランティア・区民活動センター(東京都目黒区、所長:西田英雄)の活動に協力し、「めぐろボランティア情報検索サイト」の構築を行いました。

■ 「めぐろボランティア情報検索サイト」

従来、めぐろボランティア・区民活動センターで発行されているボランティア・地域活動情報誌「VOLUNTEERめぐろ」上でのみ告知されていたボランティア情報を、Web上に掲載しパソコン上で閲覧を可能としたサイトです。

URL : http://meguro-vc.net/

今まで、「ボランティアをやってみたいけど、 どうしたらできるの?」、「どんなボランティア があるのかよくわからない」といった、ボラン ティア活動に対して興味がありながら参加で きていない人たちに門戸が広がり、目黒区民の ための、目黒区民によるボランティア活動を、 より活発にできると考えています。

サイト内で自分の条件にあったボランティア 情報が検索でき、文字の大きさ、色等にも配慮 した高齢者や障害者の方にも使いやすい構成 となっています。



【TOPページ】

■ サイトデザイン詳細

「イメージキャラクター」

目黒区社会福祉協議会のイ メージキャラクター (てって ちゃん)の使用によりボラン ティアに対するイメージをや わらげました。 めぐろボランティア情 文字サイズは大中小 のような切り替えを ~目黒区内のボランティア活動を調べよう~ 必要とせず、元々大きめの表示としました。 TOP>>#ランティアとは? ボランティアとは? ボランティア(Volunteer)の語源は、ラテン語の「ボランタール」といわれています。 この言葉は、「自由」「正義」「勇気」を意味しています。 だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して、一人ひとりが勇気を 「イラスト」 持って、自ら進んで行動していくことがボランティア活動です。 イラストを多用する 事で「ボランティア」 をより身近なものに イメージしやすくし すべての人が共に暮らして 略でする活動ではなく で行う活動です。 ました。 豊かな暮らしのために住民が 自分のできる範囲で労力や 先頭に立って、共にアイディアを 出し合いながら創造していく活動です。 「色合い(コントラスト)」 全体をやさしいイメージ に統一。また障害者の方にも見やすいものを心がけ トップページに戻る ました。 Copyright 2009 社会福祉法人·目黑区社会福祉協議会 /Up Arrows Inc. All Rig 〒153-0061 日東区中日県2-10-13 中日県スクエア1階 電話: 03-3714-2534 (代表) FAX: 03-3714-2530 「ボタンの大きさ」 文字同様あらかじめ 押しやすい大きさに 【ボランティア説明ページ】 しました。







【活動方法ページ】

【検索結果ページ】

【検索詳細ページ】

サイトデザインにあたり、特に「文字の大きさ」「ボタンの大きさ」「色合い (コントラスト)」についてはバリアフリーWebを意識したデザインとなっています。これにより、視覚・色覚障害の方でもある程度読みやすい表示ができるだけでなく、音声ブラウザ(※IBM社製「ホームページ・リーダー」のインストールが必要)にも対応しています。

アップアローズは引き続き本サイトの改善、運用に関して、めぐろボランティア・区民活動センターに積極的に協力していきます。また、今まで培ってきたノウハウや、最先端の技術を使って、CSR活動の一環として地域社会への貢献を果たして行きます。

■株式会社アップアローズについて

社 名(商号): 株式会社アップアローズ

設 立 : 2006年7月

代表者: 代表取締役 星加 修 (ほしか おさむ)本 社: 〒153-0044 東京都目黒区大橋1-6-2

池尻大橋ビルディング3F

電 話 : 03-6712-0100

URL: http://www.up-arrows.co.jp/

携帯サイト http://up-arrows.jp/

事業内容: 携帯電話向けウェブサイトの企画、開発、構築、携帯電話向けコンテンツ

の制作、インターフェースデザイン、サウンド制作

■本件に関するお問合わせ先

株式会社アップアローズ マーケティング部 担当:小林

TEL: 03-6712-0100 Email 用コンタクトURL: info@up-arrows.co.jp

IAUD Newsletter vol.2 No.8 2009.11

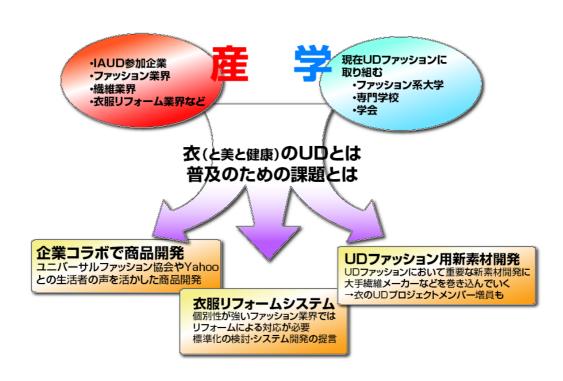
Case study: 衣の UD プロジェクト 衣服のユニヴァーサルデザイン

スリーエムヘルスケア株式会社 安全衛生製品事業部 マーケティング部 一色 香月

「衣の UD プロジェクト」は生活に不可欠な「衣・食・住」のなかで「衣」をターゲットとしたプロジェクトとして 2005 年に発足しました。研究開発企画部会の中では 5 番目に発足したプロジェクトです。「ユニヴァーサルデザイン」という全ての人に使い易いことを目的としたデザインと「ファッション」という個性や流行を重視した一見相反すると思われがちなデザイン融合させることをテーマに活動を続けています。

● プロジェクトの取り組み

学術機関等との協力が不可欠であるとの課題をもとに「産・学の協労」をテーマに活動をすすめています。このテーマを進めることにより「衣」のユニヴァーサルデザインにおける問題点や普及のための課題などを収集し、問題解決のため次のプログラムに取り組んでいく予定です。



- ◆ ユニヴァーサルデザイン用新素材の検討
- ◆ 各企業の UD 素材を活用したコラボレーションによる商品開発
- ◆ 衣類の廃棄などに対する環境を考えたリフォームの標準化やシステム開発の検討

● プロジェクトプロセスマップの作成

「衣」のプロジェクトとしては、2010年に予定されております第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議を直近のゴールと位置付けて、下図のようなプロセスマップを作成しました。 コンセプトは「その機能は美しいか」です。



① アイデアコンセプトフェーズ

素材や機能、デザインなどのアウトラインについて検討します

② 素材検討、評価用 UD ウエアサンプルの試作フェーズ

プロジェクトメンバーである日本ユニバーサルファッション協会(以下 UNIFA)の知見を活用しUD活用素材/デザインを組み合わせてUDウエアサンプルを作ります。

③ 評価、検証・データ収集フェーズ

作成したサンプル衣料を活用し、学術機関や関連団体と協業し着心地(着易さ)を定量的に 検証します。

④ 課題抽出·改善活動

検証結果より課題を抽出し、それを基に取り組むテーマを設定し新たなプログラムを進めていきます。

このプロセスを1サイクルとして数回継続し UD 製品や素材の開発、標準化に役立てたいと思います。

● 評価用 UD ウェアサンプルの作成

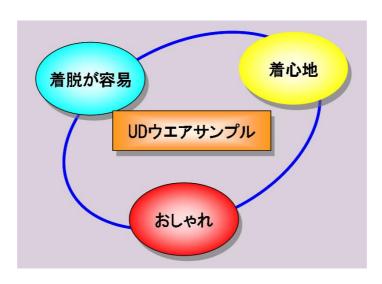
「衣のUDプロジェクト」では評価用UDウエアサンプルを作るため、課題抽出のための討議を繰り返し、また活用できそうな生地や服資材について素材メーカー様に特別参加いただき勉強会をおこないました。





UD ウエアには蓄積された知見を持つ UNIFA 様を中心に討議した結果、評価用ウエアサンプルのコンセプトを「着脱の容易さ」「着心地」「おしゃれ」決定しました。

多くの人にとって着脱が容易で着心地が良いウエアに必要な機能として「ストレッチ」に着眼し、伸縮性のある素材を選定し、UNIFA様にてその機能を美しく見せるためにデザインしました。



評価用ウエアサンプルのコンセプト

● これからの取り組み

評価用 UD ウエアは現在トワール組みを行っており 2009 年末の完成を目標に取り組んでいます。 サンプルの完成後は学術関連と連携し、衣服の脱着動作にかかる身体的負担について定量的に検 証していきたいと思います。

私たちは現在討議中心から物つくりに移行しワイワイと楽しく進めています。 新規参加メンバーを募集していますので、私たちの取り組みに興味がある方は是非とも「衣の UD プロジェクト」にご参加ください。

世界の UD 動向

●第3回国際 UD 会議 2010 プレイヴェント 「しずおかユニバーサルデデザインの絆 in 浜松」開催プログラム決まる!

IAUD が共催するこのイヴェントは、来年 10 月 30 日から 11 月 3 日まで浜松市において開催される「第 3 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010」のプレイヴェントとしても位置づけられています。

既に概要は IAUD のサイトでもお知らせしていますが、プログラム概要が決まってきましたのでご案内します。

開催趣旨:多様な個性の存在と多様化する世界の中で、互いに「気づき」→「考え」→「行動する」ユニヴァーサルな社会づくりが求められています。このような社会の実現を目指し、ユニヴァーサルデザインに対する市民の一層の関心と理解を深め、情報発信するイヴェントを開催します。



<開催概要>

・日時: 2009 年 12 月 4 日 (金) 午前 10 時 45 分から午後 5 時 30 分まで 12 月 5 日 (土) 午前 11 時から午後 5 時 30 分まで

• 会場: 静岡文化芸術大学 (静岡県浜松市中区中央二丁目1番1号) 大学ホームページ: http://www.suac.ac.jp/

・参加費:無料(交流会を除く)

• 主催: UD フォーラム実行委員会、浜松市、静岡県、静岡文化芸術大学

• 共催: 国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)

協賛:浜松商工会議所、(財)浜松観光コンベンションビューロー、はままつ冬の蛍フェスタ実行委員会

・後援: 浜松市教育委員会、静岡県教育委員会、社会福祉法人浜松市社会福祉協議会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、テレビ静岡、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、NHK 浜松支局、K-MIX、Fm Haro!、中日ショッパー、びぶれ浜松、ぱど

・協**賛交流イヴェント**: はままつ冬の蛍フェスタ(11 月 14 日から 1 月 10 日)

くプログラム概要>

O12月4日(金)

・開会式:午前10時45分から11時

•記念講演:午前 11 時から正午

「誰もが暮らしやすい高齢社会への提言」 講師:樋口 恵子 氏(評論家)

・パネルトーク:午後1時から2時45分

「次の世代に今できること」

コーディネータ: 古瀬 敏 氏(静岡文化芸術大学 教授)

パネリスト:樋口恵子氏(評論家)

赤池 学 氏 ((株)ユニバーサルデザイン総合研究所 所長) 原田 博子 氏 (はままつ子育てネットワークぴっぴ理事長)

高野 裕章 氏(富士宮市都市整備部都市計画課)

- •特別講演:午後3時から4時30分 「UDの来し方、行く末」 講師:イレーン・オストロフ氏(米国)
- IAUD 研究開発企画部会成果発表:午後4時30分から6時
- ・交流会:午後6時から7時 会費:3000円(事前予約制。当日集金。)

○12月5日(土)

- ・UD 大賞授賞式:午前11時から正午
- ・特別ワークショップ「48 時間デザインマラソン」発表及び表彰:午後1時から3時
 - ※ IAUD 主催で、ワークショップは12月3日(木)からスタートします。金沢美術工芸大学の荒井利春教授の監修により、IAUD 会員 および 静岡在住の一般参加のデザイナーからなる5つのチームで、当日発表されるテーマに基づき48時間という限られた時間内に競争設計を行います。48時間の前半は主に、ユーザーと共に生活現場へ出かけ、様々な問題点を抽出、後半は、デザインの総合化とプレゼンテーション資料の作成作業を行います。

最終日のこのプログラムでは来場者およびマスメディアに対し、公開プレゼンテーション と公開審査が行なわれ優秀作が表彰されます。

- UD 学習発表:午後3時から3時30分 発表学校:浜松市立元城小学校、浜松市立佐藤小学校
- ・UD コンサート、フィナーレ:午後 4 時から 5 時 30 分 ブルーノーツジャズオーケストラと浜松特別支援学校生徒らによるセッションと 来年の国際 UD 会議に向けたメッセージを発信

<展示・その他イヴェント>

- ・企業展示、UD 製品展示、学校・行政等のパネル展示、自助具展示など 12月4日(金)・5日(土) 午前11時から午後5時
 - ※ IAUD 活動紹介のパネル展示、IAUD 会員を含めた企業展示も行います。
- ・市民参加イヴェント: 12 月 5 日 (土) 午後 1 時から 3 時 市民や市民団体によるパフォーマンスを披露
- ・まちなか UD 探検ラリー: 12 月 4 日(金)・5 日(土) 午前 11 時から午後 5 時 駅から会場までの UD ポイントの探索ラリー
- **UD 探検ウォーク**: 12 月 5 日(土) 午前 11 時から午後 5 時 静岡文化芸術大学の身近な UD を探索し、触れる。



静岡文化芸術大学キャンパス

IAUD 公式サイトおよび浜松市の下記サイトも合わせてご覧ください。

http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/study/universal/pule/pule.htm

●Design for All 財団'ニュースレターより

Design for All 財団は 2006 年の UD 国際会議でも講演されたフランチェスク・アラガイ氏が代表を務め、スペイン・バルセロナ市を拠点に活動している UD 推進団体です。先月届いたニュースレターからお伝えします。

・AYDER がトルコの団体としては初めてデザインフォーオール財団に加盟

AYDER (Alternative Life Association-オルタナティヴ・ライフ・アソシエーション) は 2009 年 7 月、デザインフォーオール財団に協力組織として加盟し、「デザインフォーオール」プロジェクトにトルコから参加する初めての団体となりました。Ayder は加盟後の最初の活動として「Flag of Towns and Cities for All (すべての人のための街と都市の旗)」プロジェクトをトルコで推進することをコミットしました。



AYDER のルーツは、「オルタナティヴ・キャンプ(Alternative Camp)」と呼ばれるプロジェクトにあります。これは、障害を持つ若者がスポーツや教育、レジャーを通じて社会に参加するのを助ける目的で、2002 年からトルコで実施されているプロジェクトです。このプロジェクトの成功に勢いを得て誕生したのが AYDER で、その目的は「バリアフリー・トルコ」を実現するための革新的で持続可能なプロジェクトや解決策を開発することです。

AYDER がこれまでに開発した最も重要なプロジェクトの一つが、「ドリームズ・アカデミー (Düşler Akademisi: Dreams Academy)」です。国連開発計画 (UNDP)、ヴォーダフォン・トルコ財団 (Vodafone Turkey Foundation)、およびベジクタシュ市の援助を受けたこのプロジェクトが目的に掲げているのは、肉体的・精神的障害のある人々に対する社会的差別を打破し、こうした人々が芸術を通じてアクティヴで生産的な市民となる機会を広げることです。

AYDER はトルコにおける「Flag of Towns and Cities for All (すべての人のための街と都市の旗)」プロジェクトの推進役になっています。トルコは国連障害者権利条約を批准したばかりです。トルコ統計局の推定によると、同国には何らかの障害を持つ人が850万人おり(全人口のほぼ13%に相当)、課題は山積しているといいます。デザインフォーオール財団は、AYDERのプロジェクトがトルコと世界のすべての人々の暮らしの向上に役立つことを願っています。

・カイシャ・テラッサ銀行社会事業部とデザインフォーオール財団、カタルーニャに「個人の自 律のための情報センター」を設立



今後予想される人口動態の動向を考慮すれば、個人の自律を 高めることは、福祉社会の実現にとって不可欠であり、将来の 礎を築くための課題だと言えます。

現在のカタルーニャには、個人の自律とアクセシビリティを助長するのに役立つさまざまな手段、各種手当、サービスがたく

さん用意されています。しかし、担当部署と管轄当局の一元化の不徹底、利害関係者の多様性、 さらに受益者本人のニーズや具体的な要求に対する理解不足などが障壁となって、障害のある人 が必ずしも利用可能なすべての手段を利用できる状態にはなっていません。

「個人の自律のための情報センター(Information Centre for Personal Autonomy)」設立の目的は、こうした障壁をなくし、本人が必要とする解決策とさまざまな手段を、統一された簡単な方法で利用できるようにすることにあります。また、人々の参加を促すとともに、情報収集の推進役を果たすことで、あらゆる人がカタルーニャにおける「個人の自律」をサポートするシステムの継続的改善に貢献できるようにすることも、設立目的に含まれています。

同センターの使命は、将来の「Catalan Network for the Promotion of the Personal Autonomy and Universal Accessibility(個人の自律とユニヴァーサル・アクセシビリティを推進するカタルーニャ・ネットワーク)」の拠点になることです。そのために現在すでにさまざまな利害関係者と連絡を取っており、人々の役に立つ現実の存在としてのセンターのオープンが、ネット

ワークの形成へ向けた重要なステップとなるものと考えています。

センター設立プロジェクトはスケジュールどおり進んでいます。同プロジェクトは、カイシャ・テラッサ銀行社会事業部 (Caixa Terrassa's Social Deed) から資金提供を受けて、デザインフォーオール財団が進めているものです。センターではすべての社会的利害関係者の参加を見込んでおり、主な活動内容が決まれば 2010 年初めにオープンする予定です。オープン後は、さまざまな人たちの協力によって、どんどん情報が蓄積されていくでしょう。

・「すみません、開けていただけますか?」



多くの消費者、とりわけ加齢によって何らかの問題を抱えている人は、 手の力が十分にないために、消費者向け商品の包装を開けるのに一苦労 します。しかし、今日市場に出回っている包装の多くは、想像上の(し かし実際には存在しない)「平均的な成人男性」の手の大きさと力を基準 にデザインされているように思われます。商品を安全に使うためには「包 装が開けやすい」ことが不可欠であるにもかかわらず、商品の包装が開 けやすいかどうかを評価するための規格は今のところ存在しません。

ANEC (European consumer voice in standardisation—欧州標準化消費者代表調整協議会)では、欧州規格案 prEN 15945「Packaging - Ease of opening - Criteria and test method for evaluating consumer packaging (包装 - 開けやすさ - 消費者向け商品の包装を評価するための基準と

試験方法)」を支持しています。なぜなら同協議会では、現在の人口動態の動向からみて、すべての消費者、とりわけ高齢者にとって、安全で開けやすい包装を徹底することが不可欠であると考えるからです。同規格案は、2009年10月初めまでが公開調査(pubulic enquiry)期間になっています。

ANEC ではさらに、開けやすい包装が役立つと思われる幅広い消費者を対象に含めるために、この規格の適用範囲を視覚障害などのほかの障害にも広げることを提案しています。

・高齢者のためのクルマのデザイン



世界の「老人」人口の増加に伴い、高齢者向けクルマの需要は拡大しています。社会認識の高まりと、子供に頼らない高齢者層の存在を背景に、従来より安全で快適であることはもちろん、高齢者にアピールするクルマ作りの必要性が生じています。ここで取り上げる記事では、これまでよりはるかに安全で快適に路上を走ることができる高齢者向けクルマのコンセプトを提示しています。このクルマは単に「タイヤの上にシートを載せたもの」ではありません。高齢者向けの「若々しい」デザ

インを備え、エネルギーに満ちています。このクルマは、高齢者の人たちに所有する喜びとプライドを与えてくれます。

コンセプト化にあたっては、年齢に起因する最も大きな肉体的制約のうちのいくつか、すなわち視覚、認知反応時間、および体力と機敏性を考慮しています。これらの点を考慮して提案されたコンセプトカーでは、「双方向性」「安全性」「広い空間」「安定性」をキーワードとして追求しています。具体的には、ドアを用いずに車両に出入りできる回転機構、ドライバーの快適性を最大化するためのハンドルおよびシートのアジャスタブル機構など、各種の独創的な工夫が盛り込まれています。



・10月1日:欧州デザインの日



欧州 23 か国の 40 を超える職業団体、学校、およびデザイン推進センターが構成メンバーとなっている欧州デザイン連盟 (Bureau of European Design Associations: BEDA) は、欧州委員会の「欧州創造性・イノヴェーション年 (European Year for Creativity and Innovation)」の

枠組みの中で、来たる10月1日を「欧州デザインの日 (European Day of Design)」と定めることで合意しました。

「欧州デザインの日」の狙いは、欧州の経済活動のイノヴェーションを推進するうえでデザインが果たす重要な役割にスポットを当てることにあります。イノヴェーションが進めば、将来的に欧州の競争力強化につながる可能性があります。

- 2009 年 11 月 30 日〜12 月 1 日: サン=テティエンヌで都市とデザインに関する会議

Les villes laboratoires du design



「デザインの都市 (City of Design)」は、「第 22 回 ジャック・カルティエにちなむ対話 (Dialogues Jacques Cartier)」の枠組みの中で、 シンポジウム「都市 - デザインの実験所 (The cities, laboratories of design)」を開催しま

す。サン=テティエンヌは、フランスのローヌ=アルプ地方政府が進めているプロジェクト「都市におけるデザイン (Design in the City)」のモデル実験都市です。今回のシンポジウムは、モントリオール市と協力して開かれます。モントリオール市では 2004 年にも、新しいデザインの都市をテーマにシンポジウムが開催されています。

一連の会議の目的は、グローバル化が進む世界の中で、各都市のアイデンティティを大切にしつつも住民の暮らしをさらに快適にするような都市の差別化を実現するために、デザインはどんな役割を果たしうるのかを明らかにすることにあります。都市開発にもさまざまなアプローチがある中で、現在注目されているデザインからのアプローチは、社会・経済・環境の諸分野に大きな影響を及ぼすだけでなく、政治家・専門家・住民の間にこれまでにない建設的で協力的なタイプの新しい対話を生んでおり、こうした対話はさまざまな国の都市間にも広がっています。

今回のシンポジウムでは、欧州、アジア、北米のさまざまな都市の取り組みが数多く紹介されます。また、都市の戦略的開発におけるデザインのインパクト、さらに未来を形作る上でデザインが果たす重要な役割について、検証が行われる予定です。デザインフォーオール財団では、パルマ・デ・マリョルカ(Palma de Mallorca)市を例にとって、「Flag of Towns and Cities for All (すべての人のための街と都市の旗)」プロジェクトについて紹介する予定です。

・世界高齢者団体連盟 (IFA) 第 10 回世界会議—変化をもたらす環境の醸成:将来に目をむけて 老いる (Climate for Change: Ageing into the future)



第10回会議は2010年5月3〜6日、オーストラリアのメルボルン・コンヴェンション・センターで開催されます。 参加登録と論文要約の受付はすでに始まっています。

人口の高齢化は今日、世界各地で社会が直面している最も重要な課題の一つです。また、21世紀の人口動態の基本的特徴でもあります。しかし、年を重ねるとともにより活動的で健康的な生き方ができるということは、危機ではなく、むしろ人類の歴史における勝利だと言えます。

世界高齢者団体連盟(International Federation on Ageing: IFA) 第 10 回世界会議は、高齢者にやさしい社会変化を生み出すために活動しているすべての人が、確かな情報交換と交流を図るための格好の場となることを目指しています。プログラムの枠組みとなるのは、「気候変動」「ソーシャル・インクルージョン」「人権」「変化の取り込み(Resourcing Change)」「健康的に

老いる」の5つのテーマで、これらのテーマは新たな議論を促すと同時に、従来から存在するさまざまな課題を深く掘り下げるのにも役立つはずです。各テーマについては、「高齢者のための国連原則(United Nations(UN)Principles for Older Persons)」、国連の「高齢化に関するマドリード国際行動計画(Madrid International Plan of Action on Ageing)」、世界保健機関(WHO)の「アクティヴ・エイジング・フレームワーク(Active Ageing Framework)」をはじめとするさまざまな国際的・地域的枠組みの中で広報活動が行われることになっています。デザインフォーオール財団は、2008年にカナダで開催された前回の世界会議同様、今回の会議でも積極的役割を果たす予定です。

メルボルン市はすばらしい都市であるとともに、オーストラリア文化を育んできた長い歴史を持ち、世界高齢者団体連盟の世界会議開催十周年を祝うのに絶好の場所です。世界高齢者団体連盟とヴィクトリア州高齢化問題協議会(Council on the Ageing: COTA)では、この国際会議において豊かな高齢化の世界的実現へ向けて知識を共有し、情報交換を行い、種々の問題に対する解決策を模索するため、すべての国とすべての分野の人々に会議への参加を呼びかけています。

原文は Design for All Foundation 公式サイトをご覧ください。

http://www.designforall.org/en/novetats/index.php

●国土交通省がユニヴァーサルデザインタクシーの試作車を発表!

10月16日(金)の午後、霞が関の国土交通省の駐車場にて、ユニヴァーサルデザインタクシーの試作車のお披露目会が開催されました。また、この試作車は10月24日(土)から開催されている「第41回東京モーターショー(千葉市・幕張メッセ)」の国土交通省のブースでも展示されています。



この試作車は日産自動車の「バネット」をベースにしており、正式名称は「NV200バネット タクシー」。車いす使用者に限らず、足腰の弱い高齢者、妊娠中の女性、ベビーカー使用者なども含め、みんなが使いやすい新しいタクシーを目指して開発されたものです。予約制の福祉限定による利用に限らず、街中で呼び止めて誰もが気軽に利用できるタクシーを想定したとのことで、以下のような特長があげられています。



車いす用のスロープも標準装備

・ゆったり乗れる2nd シート

前席シートと後席シートの間隔を432mmとったことにより、乗車するすべての人が快適に移動できる。

・居心地の良い、車いすレイアウト

車いすの方も含めて乗車するすべての人が、同じ目線 で快適に移動できるよう設計。

・高齢者が乗り降りしやすい装備

手すりのカラープレート、電動式スライドステップ、フラットフロアなど、乗り降りのしやすさにも配慮。

・車いす使用者が車両後部から乗降

詳しくは国土交通省のサイトをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha01_hh_000010.html

【UD2010 ウォッチング】

●「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010」の公式サイトがオープンしました。

いよいよ開催まで余すところ1年を切り、準備作業が本格 化してきましたが、会議の公式サイトがオープンしました。 開催趣旨書や開催概要がご覧いただけるほか、論文要約(アブ ストラクト)の投稿も受け付けています。

英文サイトも順次公開される予定です。

第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010公式サイト

http://www.ud2010.net/



●実行委員会の動きが活発になってきました。

公式サイトもオープンし、来年秋の開催に向けて実行委員会の動きも活発になってきました。当面は各担当委員による部門別ミーティングを適時開催し詳細計画が検討され、その結果を実行委員会や理事会に報告するかたちで検討が進められる予定です。

次回の理事会は11月24日(火)、今年夏、横浜市に完成したばかりの日産自動車(株)のグローバル本社ビルにて、開催が予定されています。



日産自動車グローバル本社(横浜市)

- 【編集後記】○鳩山総理は9月 21 日の国連気候変動サミットで、地球温暖化に影響を与える温室 効果ガスの 2020 年の排出量を 1990 年比で「25%削減」を宣言した。もともとエネ ルギー効率が高く、これまで新技術を導入し多くの対策を講じてきた日本にとって、 この削減目標は相当に厳しいもので、産業界や専門家からも異論が出ている。日本 だけが突出した基準を実現しようとすると、それが日本の企業活動への大きな制約 となり、国民生活に与えるコストも過大となる恐れがある、などが主な論点である。 またこの目標を実現するための対策が具体的にならないと、私たちの日々の生活へ の影響を具体的に思い浮かべることができない。基準の是非を簡単に論じることは 難しい。しかし昨今の異常気象(集中豪雨、台風、熱波、冷夏、暖冬…)、水不足 と洪水、種の絶滅と新種の出現、生態系の崩壊、熱帯地域での病気・感染症が温帯 地域でも現実のものになるなどは、地球温暖化の影響と言われている。では何をす べきなのだろうか。自分が棲んでいた森の火災に対し、クチバシのひとしずくの水 を運んで消火活動をした「ハチドリ」のように、「自分にできること」をしなけれ ばならない。「そんなことをしていったい何になるのだ」では何も起こせない。個 人でできることには限界があるが、多くの人の意識を変革し大きなうねりを生み出 せば、強大な流れを起こすことができる。それには、まず行動であろう。(矢)
 - ○来年のまさに今日(10月30日)から第3回国際UD会議が浜松でスタートします。公式サイトも立ち上がり論文募集の受付も開始されました。事務局のサポートをさせていただいた2002年の最初の国際会議では、開催1年前の時点でまだ論文募集のアナウンスもされておらず、不安を抱えながら準備作業に取り組んでいたことを思い出します。それと比べれば今回の状況は一見順調にも見えますが、油断できない要素もいくつかあることも事実です。中でも気がかりなのは企業の協賛やイヴェント参加への意識と、海外からの参加者の状況です。特に費用負担がより大きくなる海外からの参加は心配なところで、国際会議として成功したというためには、重要なポイントの一つとなります。主催者サイドからの働きかけや支援もさることながら、まずは国内からのエントリーやイヴェント企画など、主催国としてしっかり盛り上げていくことが大切だと思います。海外からも万難を排して参加したいと感じていただける魅力ある会議となるようしっかり支援していきたいと思います。(蔦)

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。 ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報をお寄せください。 また、国内外の UD 関連イヴェント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。 ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.2 No.8 2009 年11月2日発行 国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事 務 局 :225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417

e-mail: info@iaud.net

情報交流センター: 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 (IAUD サロン) トヨタハ丁堀ビル 4 階

電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847

e-mail:salon@iaud.net